



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2023年6月1日

6月号

校長 安倍 武雄

## 学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

5月26日は埼玉大学教授の北田先生をお迎えしての月例授業研究会でした。1年生の生活科「生き物の変化」、2年生の算数「長さをはかってあらわそう」の二つの授業を公開して、放課後に授業研究会を行いました。

1年生の授業では先生の「よく観てかいてください」という、あえて親切にしない(情報を与えすぎない)ような指示から観察カードのスケッチが始まりました。

自分の朝顔に顔がぶつかるほど近寄ってみている子、お友達の朝顔と比べながらかく子などスタートは様々です。次第に「先生、色鉛筆使っていいですか？」の声。先生は「もちろんいいですよ」と答えます。すると、それがさーっとクラス中に広がっていきます。じわじわと、「よく観る」という言葉が効いてきます。葉っぱをさわりながら丁寧にスケッチする子、「ここが紫色で～」とつぶやきながら色鉛筆を走らせる子、「葉っぱに線がある！」と発見に喜んでいる子、「ほら、ここが桃の形なんだよ」と担任に報告する子…など「よく観る」ということを学んでいったようでした。それだけではなく、観察中には、クモや虫がでてきてそちらに夢中になってしまったり、観察後水をやりながら「ほら、おなかいっぱいになったでしょ？」と朝顔に声をかけたりとまさに、「生活科」として五感を使った学びが展開されました。



2年生の授業では、「まるちゃんがダンちゃん(いずれもダンゴムシ)のおうちに遊びに行く」という設定で、 $6\text{ cm}8\text{ mm}+4\text{ cm}5\text{ mm}$ の計算をする授業でした。いろいろな意見が出ましたが、 $11\text{ cm}3\text{ mm}$ と $10\text{ cm}13\text{ mm}$ で意見が分かれました。ある子は、「 $11\text{ cm}3\text{ mm}$ だよ。計算したから」といいます。先生は「 $8$ と $5$ を足したら $13$ じゃない？」と問い返します。また、別の子は「 $6+4$ は $10$ でしょ。だから

$10\text{ cm}$ だし、 $8+5=13$ だから $13\text{ mm}$ でしょ。だから $10\text{ cm}13\text{ mm}$ と自分の意見をしっかりと述べます。先生は「じゃあ、教室にあるものをいろいろ使ってちゃんと調べてごらん」と活動を促しました。ひもや、紙定規を使って調べる子、自分の定規をじっくり見つめる子、タイルを並べて考える子…。実際に調べたあと、ある子が「 $10\text{ mm}$ は $1\text{ cm}$ です。物差しで分かりました。だから、 $11\text{ cm}3\text{ mm}$ だと思います。」と発言しました。

いずれの授業も、あるべき答えを当然教師として想定しつつも、あからさまに「与えていない」ところに共通点があります。それは、知識や技能を押しつけていないといってもいいでしょう。そして、自分で「考える」ということを大切にしている様子がわかります。考えてみれば当たり前です。「～は、 $00$ です」を覚えることよりも、「そうか！～は、 $00$ なんだな！」と、自分で見つけたり、友達と話しながら気づいたりすることのほうが、子どもたちにとってよっぽどうれしいことであろうから。これからも、子どもたちが自ら学んでいく授業を追究していきたいと思えます。